

<授業実践8>「古典探究」読むこと

1 単元名

複数の資料を読んだり、調べたりして、描かれた状況や背景を理解する

2 指導目標

(1) 単元の目標

・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(2)のエ)

・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A「読むこと」(1)のカ)

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 言語活動

ア 言語活動

平安京について複数の資料を読んだり、調べたりして「安元の大火」の状況や問題について報告書にまとめる。

イ 言語活動のねらい

古典の作品や文章は書き手の考え方や書かれた時代の世界観が反映されている。その一方で、当時の常識や風習は書かれないこともある。そこで、『方丈記』が書かれた時代や平安京の状況について研究した複数の書籍を用いて、描かれた時代や平安京の状況を理解し、古典作品に対する自分の考えを広げたり、深めたりさせたい。

(3) 教材

ア 教材 『方丈記』(安元の大火) (『高等学校 古典探究古典編』第一学習社出版)

(資料1) 川尻秋生(2008)『日本の歴史 第四巻 揺れ動く貴族社会』小学館 p256～258

(資料2) 安田政彦(2007)『平安京のニオイ (歴史文化ライブラリー224)』吉川弘文館 p52～55・69～72

イ 教材観

本文や資料の内容を読み取り、描かれた状況を理解する能力を育てるだけでなく、異なる意見を聞いたり、質疑応答をしたりして、それらを自らの意見に関連させ、取り込むことで考えを拡張、深化することにもつながる教材である。また、新たな疑問につなげるなど、探究する姿勢をもたらすことに適した教材である。

(4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

取り組みたいと思える言語活動とするために、古典作品(『方丈記』)の読解だけではなく、『方丈記』が書かれた時代や平安京の状況について研究した複数の書籍を読み、生徒自身が描かれた状況や問題を考えるようにした。自分の考えを基にしながら、グループでの話し合いで新たな気づきを得られるようにし、異なる意見や考え方を取り入れることができるように心がけた。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	今までの学習を生かして、複数の資料を読んだり、調べたりする活動を通して、粘り強く文章に書かれたものの見方、感じ方、考え方を理解し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

(2) 評価方法

ア 知識・技能

ワークシートの記述によって評価する。

イ 思考・判断・表現（読むこと）

ワークシートの説明文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
内容理解（知識・技能）	他の資料を用いて、本文の内容を詳しく説明し、筆者の考えを理解した上で説明している。	本文（「安元の大火」）の内容及び、筆者の考えを説明している。	本文の内容または筆者の考えだけを説明している。
考えの深化・拡張①（思考・判断・表現）	深化・拡張した自らの考えを論拠や構成を工夫して、書いている。	本文（「安元の大火」）と複数の資料を関連付けて書いている。	本文及び複数の資料の内容だけを列挙している。
考えの深化・拡張②（思考・判断・表現）	異なる意見や質疑応答の内容を参考にしたり、取り入れたりして自らの考えを更新している。	異なる意見や質疑応答の内容を自らの意見として取り入れている。	異なる意見や質疑応答の内容を参考にせず、自分の考えだけを書いている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

行動の観察、ワークシートの振り返りや説明文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
ワークシートへの記入（グループ活動への積極的な参加態度） (α)	他の生徒の意見・考えや自らの考えに対する質問・助言などを書き加え、それらに対する自らの考えも書き加えようとしている。	他の生徒の意見や考えをワークシートに書き加え、自らの意見への質問や助言も記入しようとしている。	他の生徒の意見や考えをワークシートに書き加えようとしている。
他の生徒の意見を参考にし、自らの意見や考えを拡張・深化している。 (β)	他の生徒の考えや意見を参考にしたり、自分の考えに関連させたりして、自分の意見を見直したり、深めたりして書き	他の生徒の考えや意見を参考にし、自分の考えや意見を書き直そうとしている。	他の生徒の考えや意見を自らの文章に書き加えようとしている。

	直しを行おうとしている。		
--	--------------	--	--

※ $\alpha \cdot \beta$ は、それぞれ「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」とする。

4 単元の指導計画（配当 4 時間）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点 * 生徒への支援の手だて	◇ 観点 □ 点検・確認 ■ 分析 * 「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 平安時代末期に起きた火事について書かれた随筆を読み、火事の被害状況や描写を把握する。 火事の被害についての作者の感想を把握する。本文を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 『方丈記（安元の大火）』を読み、火事の被害状況を確認したり、描写を理解したりさせる。 * 本文を理解する上で必要な助動詞や重要古語を必要に応じて確認させる。 作者の感想を確認し、作者の考えを把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (知) □ 「記述の点検」(発問) * 本文理解に必要な文語のきまり(古語の意味を含む)や古典特有の表現を調べるように助言をする。
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 「安元の大火」について確認する。 グループ活動の内容を確認する。 担当する資料の内容を担当者同士で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人班(基本班)を作り、「安元の大火」の内容を振り返り、確認させる。 本文及び複数の資料を読み、「安元の大火」に描かれた火災が起きた時の京全体の状況や問題について考えることを確認させる。 前時までの学習内容を振り返り、「安元の大火」に描かれた火災が起きたときの京全体の状況や問題をワークシート①に書かせる。 基本班の中で担当する資料を決める。その後、担当する資料ごとに班を作り、班ごとに資料の読み取りをさせる。 * 班員同士で助言し合い、資料から分かる火災時の京全体の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (思) □ 「行動の確認」(意見交換) * 本文内容についての理解を確認、補強し合うように助言する。 □ 「記述の確認」(ワークシート) * 必要に応じて文例を提示する。 □ 「行動の確認」(意見交換) * 班員の助言を参考にさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班に戻り、資料内容を報告し合う。 ・ 「安元の大火」の被害の問題・状況②を書く。 ・ 振り返りを行う。 	<p>や問題について指摘させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本班に戻り、担当した資料の内容を班員に報告させる。 * 資料内容について質問したり、考えたことを伝え合ったりさせる。 * 自分が担当した以外の資料などの報告をワークシートに記入する。 ・ ワークシート①と複数の資料内容を踏まえて、「安元の大火」に描かれた火災が起きたときの京全体の状況や問題ワークシート②に書かせる。 ・ 全体の振り返りをして、活動を通して学んだ点を確認させる。 	<p>□ 「行動の確認」(意見交換) * 班員の質問・意見を参考にさせる。</p> <p>◇ (思) ■ 記述の分析(ワークシート、マッピング) * 「ワークシート」の評価の観点表に留意して相互評価をさせる。</p> <p>◇ (思)(態) ■ 「記述の分析」(ワークシート) * 「ワークシート」の評価の観点表に留意して記述させる。</p>
--	---	--	---

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

平安京について複数の資料を読んだり、調べたりして「安元の大火」の状況や問題について報告書にまとめることができる。

(2) 本時の具体的な評価規準

平安京について複数の資料を読んだり、調べたりして「安元の大火」の状況や問題について報告書にまとめようとしている。

(3) 本時(4時/4時間)の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容を知る。 	<p>①本時の目標と言語活動について確認する。</p>	<p>①「安元の大火」の本文と複数の資料を使って、被害の問題・状況を考えることを理解させる。</p>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本班の中で担当する資料を決め、担当する資料ごとに班をつくり、資料を読解する。 	<p>②基本班(3~4人)の中で、担当する資料を決め、資料ごとの班をつくり、資料を読解する。 * 資料から読み取った内容をワークシートに記入する。</p>	<p>②資料を読解し、資料から分かる平安京の状況や様子などを確認させる。</p>

	<p>・基本班に戻り、資料内容を報告する。</p>	<p>*資料①班は川尻(2008)、資料②班は安田(2007)を担当する。それ以外の生徒はタブレットなどで本文の語句や平安京の建物の位置などを調べる。</p> <p>*班員同士で資料の読解についての意見や理解を伝え合い、ワークシートに記入する。</p> <p>③基本となる班に戻り、資料ごとの班で読み取ったり、考えたりしたことを報告する。</p> <p>④資料内容について質問したり、考えたことを伝え合ったりする。質問など書き加える場合は、赤ペンなどを使用する。</p>	<p>班員同士で内容について報告し合い、報告し合った内容や意見を記入させる。</p> <p>③異なる資料から読み取った内容を基にして質問したり、意見を述べたりさせる。</p> <p>④知識や情報を組み合わせたり、関連させたりして、新しい考えを出させる。</p> <p>■質問や意見をワークシートに加筆させ、ループリックにて評価する。</p>
<p>終結 (15分)</p>	<p>・「安元の大火」の被害の問題・状況②を書く。</p> <p>・本単元の内容を振り返る。</p>	<p>⑤「安元の大火」及び資料内容を踏まえて、「安元の大火」の被害の問題・状況をワークシート②に書く。</p> <p>⑥被害の状況に関する他の資料と比べて、「方丈記」の描写や筆者の考え方・状況の捉え方の特徴を考察する。</p> <p>⑦全体の振り返りをして、活動を通して学んだ点を確認し、振り返りを書く。</p>	<p>⑤「安元の大火」の本文に書かれている内容だけでなく、資料で読解した内容も踏まえて、被害の問題・状況を書かせる。</p> <p>■ワークシート②を基にループリックにより評価する。</p> <p>■主体的に学習に取り組む態度のループリックにより評価をする。</p>

6 研究の実際と考察

生徒Aは、問題点を「当時の平安京には、病人や死人」が転がっていることと捉え、資料1、2の内容（平安京には多くの死体が放置されていたこと）と自分の命よりも財産を優先することを関連付けている。そして「人の死に慣れ、事の深刻さに気が付かない人々は愚かである」と意見を述べている。しかし、「屍臭が広がり、衛生面も悪く、とても住みやすい町ではなかった」と資料を基に記述しているが、「自分の命よりも財産を優先する」ことの根拠としては適当でない。また、生徒Bは、「内裏は燃えなかったことが分かる」ことから「天皇は死んでいないので、平安京の政治はきちんと回っていた」という主張（解釈）を書いている。しかし、本文や資料、語句調べなどからの適切な引用がないため、根拠が弱い。

生徒Cは資料（＝本文）の内容を基に「死臭がすごくだよっている」と、火災後の平安京には焼死体の臭いがひどく立ち込めていることを述べている。生徒Dも、本文を一部引用しているが資料の内容を基に「京の人たちは災害に対する危機感がなくなってきたと考えられるため、火が京全体に広がった」と述べている。

本文と複数の資料や語句調べの内容を関連付けたり、俯瞰して（メタ的に）見たりしていないと言える。

生徒Aの「当時は人が死ぬということはそれほど珍しいものではなく、京全体に死体が転がっているというのはあたりまえのことであった」や生徒Cの「死体だらけで、臭いことが、京全体の状況であった」という記述は、資料に基づいた平安時代の京都の社会状況（言い換えれば、日常生活）に着目した意見や解釈と言える。生徒Dの「京の人たちが災害に慣れていたことが被害の問題であった」という記述も資料に基づいた平安時代の京都の社会状況（言い換えれば、日常生活）に着目した意見・解釈と言える。また、生徒Bの「天皇は死んでいないので、平安京の政治はきちんと回っていた」は当時の政治的状況に着目した意見・解釈と言える。

7 研究の成果と課題

実際の授業は6のように展開したが、これでは『方丈記』を火災について記録した史料として扱っただけになっており、文学作品として捉え、筆者の考えや状況の捉え方を考える言語活動になっていないという課題が生じたので、単元の指導計画、本時の指導計画については修正したものを掲載した。この修正は、言語活動もしくはパフォーマンス課題について次の二つの点から行っている。

1点目は、資料や語句調べの内容を踏まえることである。資料1及び2では平安時代の火災の頻度や平安京の衛生面の問題、右京と左京の経済発達の格差などが述べられている。また、語句調べでは、平安京の火災が発生した場所や大内裏で被災した場所について辞書やタブレットを使用して調べる活動を行っている。それらを踏まえ、言語活動・パフォーマンス課題を「本文内容及び資料などの内容を踏まえて、『方丈記（安元の大火）』に描かれた火災が起きた時の京全体の状況や問題について論述しなさい」と設定した。言語活動・パフォーマンス課題の意図は、本文には描かれていない内容を複数の資料で補ったり、語句を調べることで具体的な被害状況を理解したりした上で、「安元の大火」に描かれた問題点を考えることである。しかし、資料に書かれている内容が平安時代の火災の頻度や平安京の衛生面の問題、右京と左京の経済発達の格差などと多岐にわたっているため、生徒は何に着目し、『方丈記』の本文と何に関連させた上で、何を書けばよいのか分からなくなってしまった。そこで、言語活動・パフォーマンス課題を次のように修正した。「『方丈記（安元の大火）』に描かれた火災が起きた時の問題点について、複数の資料の内容及び語句調べと関連させて論述しなさい。なお、問題点は次の三つを設定すること。①当時の平安京の状況を踏まえた問題点②当時の平安京の経済的状況を踏まえた問題点（経済的に何が問題なの？）③政治的な問題点」（以下、修正案1）。その際、火災の範囲を地図上に書かせたり、大内裏の被災場所を確認したりするように促す必要もある。

しかし、修正案1の言語活動・パフォーマンス課題では、『方丈記』を火災について記録した史料として扱っており、指導事項の「古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ」ておらず、「人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること」に至っていない。

『方丈記』を文学作品として捉え、描写や筆者の考え方・状況の捉え方の特徴に着目するように促さなくてはならない。または、『方丈記』（安元の大火）及び資料1、2を読んだ上で、『方丈記』（安元の大火）に込められた意図やねらいを生徒が解釈するように促さなくてはならない。これらを踏まえて、修正案1を再度、次のように修正する（以下、修正案2）。

あなたは「安元の大火」が起きた現場に駆け付けた記者です。『方丈記』及び資料1・2、語句調べを参考にして、平安京の状況とあなたの感想（考え）を複数含めた記事（文章）を一般の読者に向けて書きなさい。その上で、『方丈記』を書いた鴨長明の考え方に言及しながら、平安時代の京都に暮らす「人の営み」についてあなたの考えを書きなさい。

修正案2の「思考・判断・表現（読むこと）」の評価は以下のように設定する。

	評価A	評価B	評価C
内容理解（知識・技能）	他の資料を用いて、本文の内容を詳しく説明し、筆者の考えを理解した上で説明している。	本文（「安元の大火」）の内容及び、筆者の考えを説明している。	本文の内容または筆者の考えだけを説明している。
考えの深化・拡張①（思考・判断・表現）	深化・拡張した自らの考えを論拠や構成を工夫して、書いている。	本文（「安元の大火」）と関連する根拠について資料などを用いて三つ以上挙げている。	本文及び複数の資料の内容のみを列挙している。
考えの深化・拡張②（思考・判断・表現）	「人の営み」についての考えについて、理由も含めて読み手が納得できるように書いてある。 ※『方丈記』の冒頭部とも関連させて書いてある。	・根拠と平安京の状況とあなたの感想（考え）が一貫している。 ・また、「人の営み」について『方丈記』に言及して、自分の考えを書いている。	・『方丈記』の内容に言及していない（もしくはズレている）。 ・根拠と感想（考え）が合致していない。 ・感想・考えを単語のみで書いている。

修正案2に対応したループリックでは、「考え方の深化・拡張②（思考・判断・表現）」を大きく修正した。

修正前の内容は質疑応答の内容を取り入れることの有無が基準となっており、『方丈記』の描写や筆者の考え方・状況の捉え方の特徴を生徒がいかにか考察したか、その内容を評価することができないと考えた。そのため、評価Bを「根拠と考えの一貫性」と『方丈記』「安元の大火」の文末にある「人の営み」に対する考えが書かれていることに変更した。これを基に評価Aは、『方丈記』冒頭の一文や「安元の大火」の文末にある「人の営み」に言及し、読み手が納得することとし、評価Cは、『方丈記』の内容に言及をしていない」や「根拠と感想（考え）が合致していない」ことと修正した。こうすることで、『方丈記』の描写や筆者の考え方・状況の捉え方の特徴に生徒が言及し、特に「人の営み」という「安元の大火」の文末にある「人の営み」に着目することを促すことができると考える。